テーマセッション

「エクイティ・マーケットの実証分析」（株式会社アイ・エヌ情報センター協賛）

司会　岡村秀夫（関西学院大学）

近年、エクイティ・ストーリーの重要性が認識されるようになり、企業経営において証券市場と正面から向き合う形の資本政策が必須となっている。日本企業の資本政策に関する研究には、本学会賞受賞作（鈴木健嗣『日本のエクイティ・ファイナンス』（中央経済社、2017 年））などがあるものの、社会的要請の高まりに比べて研究の蓄積・進展は十分とはいえない状況である。

一方、資本政策に関する（特に実証的な）研究に関心を寄せている若手・中堅研究者にとって、昨今の大学を取り巻く厳しい環境は研究の着手・展開を制約するものとなっている。そこで、エクイティ・マーケットの実証分析をより進展させるための契機となることを期待し、株式会社アイ・エヌ情報センターの協賛による若手・中堅研究者へのデータベースサービス提供を受け、新たな取り組みとして本セッションを企画した。

本セッションは 4 名の報告と質疑応答で構成される。

第 1 報告は、戸張雄太氏（(株)アイ・エヌ情報センター）による発行市場に関する日本の代表的なデータベース「INDB Funding Eye」および「INDB Funding View」の紹介である。両データベースは、債券、株式、自社株等の資本政策に関わるファイナンスデータを提供しており、特長、収録コンテンツ、データの活用方法等について紹介が行われる。

第 2 報告は、河瀬宏則氏（福岡大学）による「自社株買い買付手法とそのインセンティブ」と題する報告である。多様な買付手法を企業はどう使い分けるのか、Funding Eye の収録データを買付手法ごとに分類し、必要に応じて eol（(株)アイ・エヌ情報センター提供）を用いて自社株買いの取引相手を特定することで、その実態解明に役立つ証拠を提示する。

第 3 報告は、山下知晃氏（福井県立大学）による「日本企業の増資と財務報告の質」と題する報告である。引受手数料率やディスカウント率など公募増資に伴う資金調達コストに関して、米国の場合とは異なり，日本では財務報告の質が増資時のコストに直接的な影響を与えていないことが示唆される結果となっている。

第 4 報告は、高橋陽二氏（県立広島大学）による「データで見る IPO 改革の価格形成に対する影響」と題する報告である。国内外の IPO 研究に関する比較・整理、日本の IPO 制度の特徴を明らかにした上で、2021 年から動き出した IPO 改革の動向、特に仮条件範囲外での公開価格決定や売出株式数の変更等が価格形成に与える影響について検証する。

以上の 4 報告を受けた後、質疑応答が予定されている。本セッションを通じて、エクイティ・マーケットに関するデータベースの利活用方法、実証研究の現状と課題に関する理解が深まることを期待したい。